

聖書:ルカの福音書6章27~38節

説教:赦しなさい。そうすれば、赦されます

はじめに

今日の箇所には、よく知られているようなことばがいくつかあります。「あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬も向けなさい。」あるいは、「赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦されます。」このことばを安心して聞いていられる人はどれだけいるのでしょうか。ある人は、「もう一方の頬を出すなど絶対にできない」と言うでしょう。またある人は、「あの人のことだけは絶対に赦せない」という思いで苦しんでいるかもしれない。赦していないのだから、赦されていない、救われていないということになる。もしそうであるなら、これは深刻な問題です。結論から言えば、もちろんそんなはずはありません。それでは、イエスはここでなにを言おうとしているのか。一緒に考えてまいります。

## 1 誰ができるのか

### 1) 敵を

27節を読みます。「しかし、これを聞いているあなたがたに、わたしは言います。あなたがたの敵を愛しなさい。あなたがたを憎む者たちに善を行いなさい。」35節でも繰り返されていますから、それほど大切な命令だということになります。このことができるかどうかは、とりあえずわきに置いて、ここで二つのことに目を留めます。敵とはどんな人たちのことか。愛するとはどういうことか。

それです敵についてですが、こうなっています。あなたがたを憎む者、呪う者、侮辱する者とある。それに加えて、あなたの頬を打つ者、上着を奪い取る者ともある。実際頬を打たれなかったとしても、だまされたり、裏切られたり、屈辱的なことを言われたりされて、これを似たような経験をされた方がおられるでしょう。そんな目に遭わせた人が、あなたの敵ということになります。

### 2) 愛しなさい

問題はその後で、イエスはあなたにひどいことをした敵を愛しなさいと教える。愛するふりをするというのではない。敵のために善を行う。祝福する。祈る。我慢してできるかも知れない。そこで終わらない。もう一方の頬を向ける。上着を奪う人には下着も与える。後で触れますが、敵のために喜んでいのちを捨てる愛でもある。そんなこ

と、みなさんできますか。頭を抱えてしまいます。でもイエスは「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです」(マタイ11章30節)と言われました。私たちにとって重荷であるはずはない。

### 3) ペテロの場合

ではどういうことか。先週も取り上げましたペテロを例に挙げて考えてみます。ペテロはイエスに、「あなたとご一緒なら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております」と誓っていたのに、いざイエスが逮捕され、お前もイエスと一緒にいた仲間ではないかと言われると急に怖くなり、「いや、私はその人を知らない」と三度否定して逃げてしまった人です。その後、ペテロはどうなったか。よみがえられたイエスがペテロに現れ、こう問いかけるのです。ヨハネの福音書21章15節。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか。」これに対してペテロは答える。「はい、主よ。私があなたを愛していることは、あなたをご存じます。」

このやりとりは非常に興味深い。日本語では、イエスもペテロも「愛する」と同じことばを使っているように見えますが、この二つは全然別のことば使っている。わかりやすく言い換えると、先ほども少し触れましたがイエスは、「あなたはいのちを捨てる覚悟でわたしを愛するか」と問いかけている。ペテロは、イエスが言われる愛がどんな愛なのかよく理解している。それで彼はこう答える。「私は、いのちがけで愛することなどできません。ただできるのは、あなたをお慕いすることだけです。」自分のしてきたことを振り返るなら、そうしか言えないわけです。このようなやりとりが三度あってから、イエスはこう言われます。「わたしの羊を飼いなさい。」

変だと思いませんか。ペテロは、敵を愛するどころかイエスさえも愛せないと答えました。それなのに、イエスは「それでよい、わたしの羊を飼いなさい」と言って、ペテロを赦し、もう一度使徒として遣わしていく。今日の箇所と照らし合わせると、ぜんぜん辻褄が合っていないように見える。聖書に矛盾はありません。私たちの読み方に、なにか偏りがあるために行き詰まっています。別の視点から見なければなりません。

## 2 聖書の「鏡」

### 1) 神の姿が映る

それで、鏡を思い浮かべてみます。朝、洗面台にたって鏡を見ると自分の姿が映っています。私が動けば、鏡の中の自分も動きます。もしそうでなかったら大変なことになる。これが私たちの知っている鏡の性質です。

それで次に聖書の「鏡」というものを考えます。この聖書の鏡は、二つの変わったところがある。一つ目。聖書の鏡の前に立つと自分の姿が映っていない。その代わりに神の姿が映っている。もちろん、皆さんが神になったという意味ではないので誤解しないように。この聖書の鏡の前に立って、私たちは神と出会う。そういう言い方もできるでしょう。

### 2) 神の姿のとおり自分が動く

聖書の鏡の不思議なところの二つ目。私が動いたら鏡の中の神が動くのではない。その逆で、鏡の中の神が動くと、私がそのとおりに動く。この箇所は、こんな不思議な性質をもった聖書の鏡のことが書いてある。そんなふうな前提で読んでみる。これから具体的に解き明かします。

### 3) 「鏡」の中に映るイエス・キリストの姿

十字架の場面を思い起こします。十字架の下では、イエスの下着を取り合おうとしてローマ兵が大騒ぎをしていました。十字架の周りには、「神の子なら自分を救ってみろ」と叫んで侮辱する人たちがいた。そんな人たちのためにイエスは、「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです」と祈られました。そこで気がつきませんか。ここに書かれている事は、実はイエスが十字架でなされたことそのものです。イエスは、ご自分の敵となった人たちのために祈り、上着を奪い取る者には、下着も拒まなかった。いのちを求めようとする者には、進んでご自分のいのちを差し出した。こんなこと私たちにできないと、頭を抱えるのは当然なのです。

私たちが聖書の鏡の前に立つと、その鏡にはこのようなことをしてくださったイエスが映っているのを見ます。

### 4) 量り返してもらえ

次に38節を読みます。「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺

すって入れたり、盛り上げたりして、気前良く量って懐に入れてもらえます。あなたがたが量るその秤で、あなたがたも量り返してもらえらるからです。」

与えたら、与えられる。量ったら、量り返してもらえらる。これは性質は、鏡とよく似ています。聖書の鏡を持ちだしてきのもこのみことばがあったからです。

ではまず、ここで与える人は誰なのでしょう。量る人はだれなのか。聖書の鏡の不思議な性質の一つ目。この鏡には神が映っていると言いました。そうしますと、与えてくださる方、量ってくださる方は鏡の中に映っている神だということになる。この神はあわれみ深い方なので、敵となった罪人のために良くしてくださる。返してもらうことを考えないで、いのちを分け与えてくださり、まず神が私たちの罪を赦してくださいました。

そこで次に進みます。鏡の向こうにおられる神がこうなされたのなら、鏡のこちらにいる私たちはどうなるか。聖書の鏡の不思議な性質の二つ目。この鏡は、映っている神が動くと、こちらもそのとおりに動く。そうしますと神が赦してくださったのですから、まるで鏡に映っているように、私たちは赦していくことになる。

## 3 赦せないという思いに苦しむとき

### 1) ペテロの場合

ペテロの場合はどうだったのか。鏡に映る神がペテロを赦した結果、鏡の前に立つペテロは、かつて自分を憎み敵と思っていた者たちのところに出て行き、イエス・キリストによる罪の赦しを語っていく。神の赦しが人を造りかえて、人を赦す者となっていく。どうしてこうなるのか。自分がしてきた罪がどれほどひどいか、その罪を神が赦してくださった。そのことがわかればわかるほど、人は嬉しくなる。喜んでいく。その喜びが人を変えていきます。何度も言いますが、人を赦さなければと、努力するものではありません。そもそも努力してもできるものではない。イエスが私のうちに働いて、イエスが変えてくださる。その結果、「赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦されます。」が実現していきます。

### 2) まだ赦せなくても

しかし、こう言っても悩みが晴れない方もいるはず。「神が私を赦してくださったことは分かる。けれども、私はいまだにあの人を赦せない。私には神様が働いていないのか?」

主が教えてくださった主の祈りの中に、「私たちの負い目のある人たちを赦します」とあります。私たちにとって赦しがいかに難しいことか、神はご存じだということでしょう。赦せないという思いが簡単に消えるとは、私も思いません。生涯、死の間際まで抱え続けるかもしれません。

では希望がないのでしょうか。いいえ。すでに主が私たちを赦してくださっているのですから、希望があります。主はなんと言われましたか。「求める者には、だれにでも与えなさい。」これを私たちの側から言い直すところなる。「私は、人を赦せないという思いで苦しんでいます。なんとかしてください」と叫んで求める者に、イエスは何度でもいつでも応えて与えてくださる。そう約束しておられる。

ペテロがそうだったのです。ペテロは何をしたのですか。いざという最も大事なときにイエスを知らないと嘘をついて逃げた。ペテロは、そんな自分を赦せなかったはずです。自分をずっと責めて苦しんでいた。

こんな自分が、のうのうと「いのちを捨てて神を愛します」と恥ずかしくて言えるわけがない。その思いをそのまま主に告白したのです。その告白を主がそのまま受けとめて下った。

私たちもおなじです。聖書の鏡のたとえを持ち出すなら、神が映っている鏡の前に立って、私たちは一つだけすることがある。「あの人を赦しました」と心にもないことを言うではありません。反対です。「私はあの人を赦せない。」そんな正直な思いを、主にお伝えするのです。そうしたら鏡の中の神がご自分の背中に荷物を背負ってくださる。背負ってくださったのですから、あとは主にまかせればよい。

愛することができないと主に告白したペテロ。神はそんなペテロのそばにお立ちになり、大丈夫だからわたしの羊を飼いなさいと全面的に信頼してくれた。そんな神とともに、私たちは今週も歩んでまいります。